

新型インフルエンザ等感染症、指定感染症又は新感染症に係る
医療を提供する体制の確保に必要な措置に関する協定（医療措置協定）書（案）

兵庫県知事（以下「甲」という。）と【医療機関の管理者】（以下「乙」という。）は、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、医療機関の協力のもと、甲が新型インフルエンザ等感染症、指定感染症又は新感染症（以下「新興感染症」という。）に係る発生等の公表が行われたときから新興感染症と認められなくなった旨の公表等が行われるまでの間（以下「新興感染症発生等公表期間」という。）に、甲の要請に基づき、乙において、新興感染症に係る医療を提供する体制の確保に必要な措置を迅速かつ適確に講ずることにより、甲が新興感染症の医療提供体制を確保することを目的とする。

（医療措置実施の要請）

第2条 甲は、新興感染症発生等公表期間において、地域の感染症医療提供体制等を勘案し、必要があると認めるときは、乙に対し、次条に定める医療措置を講ずるよう要請するものとする。

（医療措置等の内容）

第3条 乙は、前条の規定による甲からの要請に基づき、別表1に掲げる医療措置を講ずるものとする。

2 新興感染症に係る医療を提供する体制の確保に必要な措置を迅速かつ適確に講ずるため、個人防護具は、別表2のとおり、乙が備蓄する。

（措置等に要する費用の負担）

第4条 前条第1項に基づく措置に要する費用については、県の予算の範囲内において甲が乙に補助を行うものとする。なお、その詳細については、新興感染症が発生した際に、その感染症の性状に合わせて定めるものとする。

2 甲は、前条第1項の病床確保及び発熱外来の設置に掲げる措置のうち、新興感染症の発生等の初期の段階から当該感染症に係る医療を提供する体制を迅速かつ適確に構築するための措置を講じたと認められる場合であって、乙が当該措置を講じたと認められる日の属する月の収入額が、新興感染症発生・まん延前の同月の収入額を下回った場合には、乙に対し、流行初期医療の確保に要する費用を支給する措置（流行初期医療確保措置）を行うものとする。

3 前条第2項に基づく措置に要する費用については、乙が負担する。なお、甲は、国において新興感染症が発生した際にその感染症の性状に合わせて検討される費用に関する補助等が創設された場合は、乙に対して、それに基づき補助等を検討する。

(新興感染症に関する最新の知見についての情報提供等)

第5条 新興感染症に係る発生等の公表が行われる前の段階から、甲は、国から新興感染症に関する対応方法を含めた最新の知見について情報を得た場合は、速やかに乙へ情報提供するものとする。

2 乙は、前項の情報も踏まえ、甲からの第2条の要請に備えて、必要な準備を行うものとする。

3 新興感染症発生・まん延時において、新興感染症の性状のほか、その対応方法を含めた最新の知見の取得状況や、感染症対策物資等の確保の状況などが事前の想定とは大きく異なる事態の場合として、国においてその判断が行われた場合は、甲は、協定の内容について機動的に変更する又は状況に応じ柔軟に対応を行うことについて、乙と速やかに協議を行うものとする。

また、甲において、新興感染症の性状が事前の想定とは大きく異なる事態の場合として判断を行った場合においても同様とする。

(協定の有効期間及び変更)

第6条 本協定の有効期間は、締結日から令和9年3月31日までとする。ただし、本協定による有効期間満了の日の30日前までに、甲と乙のいずれからも更新しない旨の申し出がない場合には、同一条件により3年間更新するものとし、その後も同様とする。

2 第3条に定める医療措置等の内容その他この協定の内容を変更する場合、甲又は乙の申し出により協議するものとする。

(協定の措置を講じていないと認められる場合の措置)

第7条 甲は、乙が、正当な理由がなく、第3条に基づく措置を講じていないと認めるときは、乙に対し、感染症法等に基づく措置を行うことができるものとする。

(協定の実施状況等の報告)

第8条 乙は、甲から本協定に基づく措置の実施の状況及び当該措置に係る当該医療機関の運営の状況その他の事項について報告の求めがあったときは、速やかに当該事項を報告するものとする。この場合において、電磁的方法(G-MIS)により報告を行うよう努める。

(平時における準備)

第9条 乙は、第3条の措置を迅速かつ適確に講ずるため、平時(新興感染症の発生前)において、年1回以上、次に掲げる準備を行うよう努めるものとする。

一 乙の医療機関において、最新の科学的知見に基づいた適切な知識を本協定の措置の実施にかかわることが見込まれる医療従事者等が習得することを目的として、研修を実施する、又は、外部の機関が実施する医療機関向け研修に当該医療従事者等を参加させること。

二 措置を講ずるに当たっての訓練を、乙の医療機関において実施する、又は、外部の機関が実施する訓練に本協定の措置の実施にかかわることが見込まれる医療従事者等を参加させること。

三 措置を講ずるに当たっての乙の医療機関における対応の流れを点検すること。

(疑義等の解決)

第10条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関し疑義が生じたときは、甲と乙とが協議し定めるものとする。

この協定の締結を証するため、この協定書を2通作成し、甲乙両者記名の上、各自その1通を保有するものとする。

令和 年 月 日

甲 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1

兵 庫 県

知 事

○ ○ ○ ○

乙 所在地

医療機関名

管理者

○ ○ ○ ○

(別表 1)

一 病床の確保 (患者を入院させ必要な医療を提供)

対応時期 (目途)	流行初期期間 (新興感染症に係る発生等の公表 が行われてから 3 か月程度)	流行初期期間経過後 (新興感染症に係る発生等の公表 が行われてから 6 か月以内)
対応の 内容	確保病床数 ○床	確保病床数 ○床
	うち重症者用 ○床	うち重症者用 ○床
	特に配慮が必要な患者の受入	特に配慮が必要な患者の受入
	精神疾患を有する患者	精神疾患を有する患者
	認知症を有する患者	認知症を有する患者
	知的障害児者	知的障害児者
	妊産婦	妊産婦
	小児患者 透析患者	小児患者 透析患者
即応化の 期間	甲からの要請後 7 日以内に即応化 すること。	甲からの要請後速やかに (2 週間 以内を目途に) 即応化すること。

二 発熱外来の実施

対応時期 (目途)	流行初期期間 (新興感染症に係る発生等の公表 が行われてから 3 か月程度)	流行初期期間経過後 (新興感染症に係る発生等の公表 が行われてから 6 か月以内)
対応の 内容	発熱外来の対応可能人数: ○人/日 検査の実施能力: ○件/日	発熱外来の対応可能人数: ○人/日 検査の実施能力: ○件/日
即応化の 時期	甲からの要請後 7 日以内に設置す ること	

※ 検査は核酸検出検査のみとし、医療機関内で検体の採取及び検査の実施まで行うものとする。また、全国的に検査の実施環境が整備されていることを前提とする。検査の実施能力部分については、検査等措置協定を兼ねる。

三 自宅療養者等への医療の提供

対応時期 (目途)	流行初期期間 (新興感染症に係る発生等の公表 が行われてから 3 か月程度)	流行初期期間経過後 (新興感染症に係る発生等の公表 が行われてから 6 か月以内)
対応の 内容	往診が可能	往診が可能
	自宅療養者対応	自宅療養者対応
	宿泊療養者対応	宿泊療養者対応
	高齢者施設入所者対応	高齢者施設入所者対応
	障害者施設入所者対応	障害者施設入所者対応
	電話・オンライン診療が可能	電話・オンライン診療が可能
	自宅療養者対応	自宅療養者対応
	宿泊療養者対応	宿泊療養者対応
	高齢者施設入所者対応 障害者施設入所者対応	高齢者施設入所者対応 障害者施設入所者対応

四 後方支援

対応時期 (目途)	流行初期期間 (新興感染症に係る発生等の公表 が行われてから3か月程度)		流行初期期間経過後 (新興感染症に係る発生等の公表 が行われてから6か月以内)	
対応の 内容		病床の確保の協定を締結し ている医療機関に代わって の一般患者の受入が可能		病床の確保の協定を締結し ている医療機関に代わって の一般患者の受入が可能
		回復患者の転院受入が可能		回復患者の転院受入が可能

五 医療人材派遣

対応時期 (目途)	新興感染症に係る発生等の公表が行われてから6か月以内			
	感染症医療担当従事者		感染症予防等業務関係者	
対応の 内容	医師	人	医師	人
	看護師	人	看護師	人
	その他	人	その他	人

(別表2)

品目	サージカル マスク	N95 マスク (DS2 マスクでの 代替も可)	アイソレー ションガウン (プラスチックガ ウンも含む)	フェイス シールド (再生利用可能な ゴーグルの使用 での代替も可)	非滅菌手袋
枚数	枚	枚	枚	枚	双
使用量	ヶ月分	ヶ月分	ヶ月分	ヶ月分	ヶ月分